

ISO9001:2015 認証機関



日本認知症ケア学会認定施設

岡山ひだまりの里病院 広報紙

第121号

2024年1月発行

発行責任者 藤田文博



ひだまり

謹賀新年

新年おめでとうございます。皆様には新年のご挨拶を申し上げます。

コロナ禍により、当院の医療とケアの活動の状況は大きく変わりました。何よりも感染対策を第一に考え、患者さんの活動を制限せざるを得ない状況が続いています。当院の場合、クラスター発生時にはその規模が大きく、制限の解除は慎重を期しています。特に面会は入院患者様、ご家族の皆様には大変寂しい思いをさせており、申し訳ありません。今しばらくは自由に面会をしていただくことはできませんが、院内での面会場所を増やすなどの対策を検討しています。

当院は今年、開院してから25年を迎えます。認知症の専門病院として地域のみなさまの期待に応えようと歩んできた道のりです。昨年は新しい認知症薬の登場、認知症基本法の成立など、認知症のご本人、ご家族にとつて喜ばしい出来事がありました。しかし現実の認知症の方をとりまく状況はさほど大きく変わったとは言えず、ご本人が苦しい立場に置かれたり、ご家族が介護の負担を背負わざるをえない状況は続いていると思います。

今年も認知症の人と家族に寄り添い、よりよい医療とケアの提供を行う所存です。
今年もよろしくお願いたします。

岡山ひだまりの里病院 院長 藤田文博



《新年を迎える準備》

習字をしながら2023年を振り返り、それぞれの思いを聞きました。



昨年は小串在住の武田直行さんの御尽力で青竹が用意できました。



門松作りには多くの患者さんが参加し、「南天はここがええ」「お飾りはもっと上」と、にぎやかな声が広がりました。土入れや竹を立てるのは男性が行い、その後の飾り付けは女性にしてもらいました。





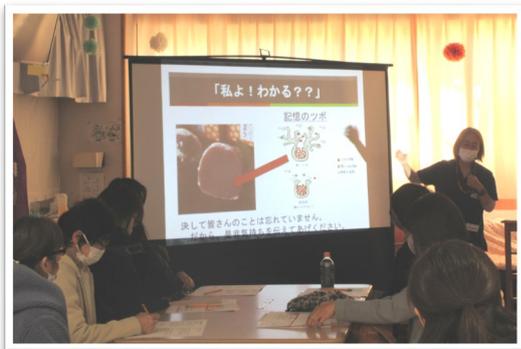
『わたしの人生も大切に』

～全体家族会～



当院では、開院当初より家族会を行っています。家族会とは家族同士の思いや戸惑いなどを分かち合える場、また認知症やその他制度について学ぶ場です。今回は久々に院内で、今年の11月26日に開催しました。

内容は4階病棟の宮原師長と、同じく4階病棟の藤井相談員からの講座です。宮原師長は「本人への対応の仕方」という題目で、記憶のメカニズムや、認知症が進行しても家族のことは記憶としては脳に留まっていること、介護を家族で抱えずに必要な時には専門家を頼り、家族自身の人生も大切にしてほしいなどのお話がありました。藤井相談員の「施設選びのポイント」では、施設の種類や本人に適した施設を選ぶ時のポイント、また相談員として本人やご家族、病院職員と一緒に本人が穏やかに生活できる施設を検討していきたい旨を、お伝えさせていただきました。



参加されたご家族から「『父は私たちのことを忘れていない』という師長さんのお話に感動しました」「初めて参加しました。他の家族との交流から、似たような経験をされていることを実感でき、ネットだけで見ただけの情報とは違い、良い時間を過ごせました」などの感想がありました。

今後も感染対策を実施しながら、家族会を開催していきます。 精神保健福祉士 加嶋 夏代

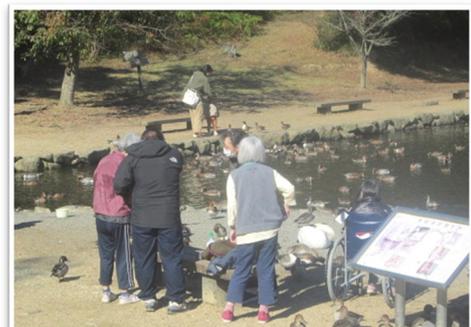


秋のお出かけレクリエーション



今年の11月14日、2階病棟では外出レクで玉野市の深山公園に行きました。車の中から「こっちに行ったら倉敷の方じゃな」「ここ通ったことあるわ」と岡山弁満載で大盛り上がり。深山公園では周りの景色を見たり、池の周囲を散歩したり、池にいる鳥に餌をやったりしました。「ようけえ鳥がおるなあ」「あっこの鳥は喧嘩しょうるわ」と、ここでも大盛り上がり。よい気分転換になりました。

介護福祉士 平塚 剛士



新年を迎える縁起物

お飾り作り・お餅つき・門松作り（1面に掲載）

お正月に向けて、毎年恒例のお飾り作りとお餅つき、門松作りを入院患者さんたちと行いました。

＜お飾り作り＞

青々とした稲わらでお飾り作りに臨みました。「うわあ、いい匂い」と、久しぶりに感じる稲の香りと感触に懐かしむ声。黙々とお飾りを作る人もいれば「うちの地域ではこうやるよ」とその地域での作り方を丁寧に教えてくださる人もいました。



＜お餅つき＞

「よいしょーっ！」と威勢の良い声が部屋いっぱい響き渡り、餅つきは開始。炊き立てのもち米に、振り上げた杵を力いっぱいつく姿は迫力があります。百寿近い患者さんも「縁起物」と、スタッフと一緒に餅つき。目には光るものがありました。餅もみも行い、できた鏡餅に大満足。ミニ鏡餅も必見です。



これで新年を迎える準備が出来ました。これら縁起物は院内に飾ります。2024年も患者さんたちと、日常に彩りのある活動を展開していきます。

作業療法士 重利 南美

『認知症は人生の一部』に感動

岡山市内の民生委員さんが 視察に訪れました



当院では昨年の11月8日、9日、13日、30日と4日間、岡山市民生委員児童委員協議会の視察研修を受け入れました。合計で約100名の参加でした。

内容は、認知症専門病院である「岡山ひだまりの里病院の概要」説明と、相談員による「認知症と共に生きていくために」と題した講義。認知症の進行度合いに応じて適切な支援があれば進行は緩やかになることと、当院の外来・入院で行っている認知症の方・ご家族の方への具体的な支援についてのお話です。また当院と関わりのある阿津町内会のまちづくりの取り組みについて、町内の皆さんからご紹介していただきました。過疎化・高齢化が進む中で、朝市（※）を起点に人のつながりを豊かにしつつ、生活交通や防災など地域課題に向き合ったお話です。

参加者からは「初めてこの病院を知りました。地域の協力を得ていろいろな事を立ち上げられていらっしゃる様子が目に見えるようです」「『認知症は人生の一部です』という言葉に感動。民生委員として一人一人に寄り添っていききたい」などのご感想がありました。

住み慣れた地域で豊かに暮らしていくためには、地域の人々とのつながりが不可欠です。地域にある医療機関として、今後もまちづくりに関わっていきます。 事務長 黒瀬 健弘

※「カモメ朝市」のこと。この朝市は岡山市南区小串地区再生プロジェクトの一環。空き家の跡地を活用し、地域を元気にしようといわれている。

賑やかで楽しい場 『ひだまりの家(カ)フェ』



グループホームひだまりの家では、昨年7月から毎月第4木曜日の15～17時に認知症カフェ『ひだまりの家(カ)フェ』を開催しています。ご近所の方や市の職員さん、ひだまりの家のご家族さんや入居者さんなど、20～90代と幅広い世代が集まります。

入居者さんのピアノ演奏を聴きながら、カフェタイムを楽しみ、和やかに歓談されたり、ホームの見学をされたり、日頃の悩み相談もされたりしています。入居者さんとお話された若い方は「日頃なかなか伺えないお話が聞けて、とても勉強になりました。相談にも乗ってくださいました」と笑顔。見学された方は「施設のイメージは終活の印象だけここでは開放的で、入居者さんの特技を活かしている」「施設の見方が変わりました。ここは素敵な所で私も入りたい」などと仰ってくださいました。入居者さん達は「大勢の人が寄ってくれるのは賑やかで嬉しい」「帰っちゃいけない、寂しい」と毎回楽しい時間となっています。ホーム長 大井 宣子

ちょっとお茶を飲みながら
誰かにつながる場として
どなたでもお気軽に
お立ち寄りください(*^-^*)



★次回の開催日は
下記のお知らせをご覧ください★



お知らせ

当院では現在、郡(こおり)と飽満の2か所で定期的に認知症カフェを行っています。

『こおり銀座』

- ・毎月第4月曜日14～16時
- ・今後の予定 1月22日、2月26日、3月25日
- ・お問い合わせ先：
086-267-2011(担当：加嶋)
086-272-2957(担当：頭師)



『ひだまりの家(カ)フェ』

- ・毎月第4木曜日15～17時
- ・今後の予定 1月25日、2月29日(2月は第5木曜日)、3月28日
- ・お問い合わせ先：086-267-9377

どちらも予約は不要ですが、場所がわかりづらいかもしれません。場所や内容など、お気軽にお問い合わせください。

ごあんない

岡山ひだまりの里病院

〒702-8012

岡山市南区北浦822-2

電話 086-267-2011 FAX 086-267-2013

ホム→ http://hidamari.hayashi-dorin.or.jp/

《外来》

診療日時：月曜～金曜
9：00～12：30

*予約制です。まずは
お電話でご予約下さい

《認知症デイケア》

実施時間：月曜～土曜
9：30～15：30

(日曜・年末年始はお休み)

相談員、看護師、作業療法士による訪問看護を行っています。詳しくはお電話下さい。

無料低額診療事業を実施しています。
医療費でお困りの方はご相談ください。
入院中の差額ベッド料はいただいております。